

# 編 修 趣 意 書

## (教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
102-283	高等学校	芸術	工芸 I	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	工 I 701	工芸 I		

### I. 編修の趣旨及び留意点

- 本教科書は教育基本法第一条に示す教育の目的及び第二条に示す教育の目標に則り、「高等学校学習指導要領第1章 総則」、及び「第2章 第7節 芸術」、「第2款 第7 工芸 I」に示された趣旨並びに目標や内容を基にして編修に努めた。
- 本教科書の編修に当たっては、特に「高等学校としての芸術科工芸の学びを実感し、工芸を通して生活や社会と豊かに関わる力を養うことができる教科書」を目指し、以下の3事項を重視して新しい教科書を編修することを趣旨とした。

#### (1) 中学校美術との学びの連続性がある教科書

- ・中学校美術の学習を踏まえ、学びを「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理し明確にした上で、木や金属、土といった素材毎に表現と鑑賞を相互に関連させた演習及び鑑賞の各題材ページを作成した。加えて、形や色彩、イメージなどの〔共通事項〕に配慮して感じ取る視点や考える視点などを盛り込んだ。

#### (2) 高等学校工芸としての学びが実感できる教科書

- ・高等学校工芸としての学びが実感できるように次のような工夫をした。
  - ①巻頭及び巻末のオリエンテーションの役割を明確にし、工芸とは何かを考えたり新たな視点でものを見たりするなど、課題をもちながら教科書の各題材を学んでいけるようにした。
  - ②各題材に、学習のねらいを短い言葉で分かりやすく記載するとともに、各ページの下に「検索ワード」及び「調べてみよう」「考えてみよう」などを設け、教科書の内容と関連する事項や興味・関心のある事柄を、主体的に学習できるようにした。
  - ③多様な美意識や工芸に関わる人を通して工芸に携わる姿勢や生き方を考える、日本の工芸作品や伝統と文化を理解するなど、高校生の発達にあった深みのある題材を配列した。

#### (3) 生活や社会と豊かに関わる力を育む教科書

- ・身近な生活の中にあるものなどの機能や用途を見つめ直したり、考えたりできるように、題材の設定や図版の選定に配慮した。
- ・工芸に関わる人のインタビューを掲載したり、自分自身の生活と工芸との関わりを意識させたりするページなど、生活や社会と工芸との関わりが意識できるように工夫した。

## II. 編修の基本方針

○本教科書においては、教育基本法第二条に示される教育の目的を達成するために、七つの具体的な基本方針を定め、編修に努めた。

・二条第一号は①と②に、第二号は③に、第三号は④に、第四号は⑤に、第五号は⑥と⑦に対応している。

第二条 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 一 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 二 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 三 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 四 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 五 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

○教科書編修に関する具体的な基本方針

### ①幅広い知識と教養を身に付ける

弊社が発行する従来の教科書と比較して情報の量を充実させ、身近な生活と工芸、社会と工芸、鑑賞について幅広く学べるように内容やバランスを考慮し、工芸の歴史や資料等のページも充実を図った。

### ②豊かな道徳心を培う

芸術としての工芸の学びを重視し、表現することの意義や作者の思いや願いなどを理解できるように題材や記述内容を工夫した。これにより、自己や他者の考えや作品を大切に作る心、よさや美しさを大切な価値とし、それを求めようとする心などが育成されることをねらいとした。

### ③個人の価値を尊重し、創造性を培い、勤労を重んずる態度を養う

発想・構想や作者の意図と表現の工夫を重視し、生徒が感性や創造性を発揮しながら自己の価値意識をもって表現や鑑賞ができるように題材や記述内容を工夫した。また、時間をかけて集中して制作に取り組む中で、努力することのよさや達成感が味わえるような授業を目指す教科書づくりに配慮した。

### ④正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力、社会形成に参画する態度を養う

発想や構想、制作途中の見直しや検討など、他者との学び合いや話し合いの場を通して、学びの中から正義と責任、男女の平等、自他の敬愛を重んずる心情を培えるようにした。また、社会的な視点で他者が用いている作品を考えることで、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるような題材を盛り込んだ。

### ⑤生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する

自然のよさや美しさを見つめ直したり、地域の風土や自然と工芸の関係に着目して考えたりする題材を設定し、持続可能な社会の形成の視点から「つくる責任・使う責任」について考えるなど、自然を大切に環境を保全していく態度の形成に寄与する教科書づくりに配慮した。

### ⑥伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する

日本や諸外国の工芸の鑑賞題材の充実を図るとともに、特に漆、日本の工芸と万博、柳宗悦と民藝運動などのページを設け、知識等を学びながら我が国の伝統と文化のよさが実感できるように配慮した。

### ⑦国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う

自己の表現とともに他者の表現も大切にす心情や、自国の文化とともに他国の文化を尊重する態度などを育成することで、工芸による人間理解や国際理解が深められ、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことのできる内容にした。

### Ⅲ. 対照表

教育基本法第二条	特に意を用いた点や留意点	該当箇所
<p>第一号</p> <p>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。</p>	<p>① 生徒の健全な心身の発達、豊かな人間性の育成、個性、能力に応じた教育などが習得できるように配慮した。</p> <p>② 自己の思いや使う人々の心情、社会や生活環境との調和を考えて制作するなどして生活をより心豊かなものにする事や、自他の存在を認め合って、共に心豊かな人間として社会生活を営むことができるようにその内容を精選、充実させた。</p>	<p>① 全体にわたって</p> <p>② P. 12・13, 18・19, 24・25, 28・29, 32・33, 34・35, 36・37</p>
<p>第二号</p> <p>個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。</p>	<p>① 生徒一人一人の異なった感じ方や考え方を尊重するとともに、互いの生徒の作品についても、表現の違いや素材の生かし方、作品それぞれのよさなどに気付き、自他の特性や個性について認識し、理解を深めるように配慮した。</p> <p>② 環境や福祉の視点から課題を見いだすなど、社会的な視点に立って題材を設定する能力や、工芸が現代の生活の中で果たす役割や必要性などに関心を持ち心豊かな発想ができる力を育てることができるような内容とした。</p>	<p>①全体にわたって</p> <p>② P. 8・9, 10・11, 12・13, 14・15, 18・19, 24・25, 28・29, 32・33, 34・35, 36・37, 46・47</p>
<p>第三号</p> <p>正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>① 生徒間で意見を交流するなどして、作品の役割や使う人の気持ちなど、客観的な視点に立って検討し構想できる能力を育てることを重視した。</p> <p>② 工芸が社会をより楽しく快適で、心豊かなものにする力を持っていることを示す内容とし、工芸に親しみを持つことによって、生涯にわたって工芸を愛好していく心情や、豊かな感性、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度などの育成につなげることができるように配慮した。</p>	<p>① P. 2・3, 4・5, 6・7, 8・9, 10・11, 12・13, 14・15, 18・19, 24・25, 28・29, 32・33, 34・35, 36・37, 46・47</p> <p>② P. 2・3, 4・5, 6・7, 8・9, 10・11, 12・13, 14・15, 46・47</p>
<p>第四号</p> <p>生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>① 実際に自然をよく観察し、また、素材を見たり触れたりすることでその特性を感じ取る活動を通して、作品づくりのイメージを高めるとともに、自分を取り巻く生活を見つめ、夢や願いなどから使いたいものやつくりたいものの思いを膨らませる内容を設置した。</p>	<p>① P. 2・3, 4・5, 6・7, 16・17, 18・19, 20・21, 22・23, 24・25, 26・27, 28・29, 30・31, 32・33, 34・35, 36・37, 44・45, 46・47</p>

<p>第五号</p> <p>伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>① 工芸の働きや工芸の伝統と文化に関する事項では、環境の中に見られる造形的なよさや美しさ、文化遺産などから日本の工芸の特質や美意識を感じ取り、生活や社会を心豊かにする工芸の働きや工芸の伝統と文化などに対する見方や感じ方を深めることを重視した。</p> <p>② 日本の工芸をはじめとして、時代や民族、国などの違いを越えて、長い歴史の中で大切に守られてきた工芸の伝統と文化を尊重し継承、創造していく意義についての考えを深め、我が国の伝統と文化に自信と誇りをもって、国際社会の一員として生きていく豊かな判断力や行動力の育成を重視した。</p>	<p>① P. 2・3, 4・5, 6・7, 10・11, 14・15, 20・21, 38・39, 46・47</p> <p>② P. 2・3, 16・17, 18・19, 20・21, 22・23, 24・25, 26・27, 28・29, 30・31, 32・33, 34・35, 36・37, 38・39, 46・47</p>
--	--	---

#### IV. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

##### (1) 学習の課題を設置

- ・表現題材に具体的な表現課題を設置し、それらが使用される人や場などを示し、表現活動における発想や構想のプロセスを参考にできるように努めた。

##### (2) 学習内容の関連を重視

- ・教科書を学習資料として一層使用しやすくし、生徒の学習効果が高まることを期待して、題材の内容や掲載している作家、作品などに関連する項目が他のページに掲載されている場合、関連ページを参照できるようにリンクを記載した。

##### (3) 他教科との関連を重視

- ・国語、日本史や世界史などの教科書に掲載されている美術作家や作品、家庭科で取り上げられている住生活のデザイン、化学の酸化・還元など、他教科で取り上げられている内容を研究し、積極的に教科書の紙面に反映させることで、他教科との関連を図り、生徒の学びが一層深まるように配慮した。

##### (4) 言語能力の育成

- ・鑑賞活動では生徒同士の意見交換が深まるよう、問いかけを掲載し、話し合いを促すような工夫を凝らした。
- ・演習の表現課題では、制作者の思考のプロセスを言語と図で分かりやすく掲載し、自分の考えを言語化し、伝えることの大切さとその技術について学べるよう配慮した。

##### (5) 社会との連携

- ・地域の風土や自然、身の回りの生活との関連を視野に入れた学習活動を紹介するページを設け、生徒の学習意欲が向上するように工夫した。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
102-283	高等学校	芸術	工芸 I	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	工 I 701	工芸 I		

## I. 編修上特に意を用いた点や特色

○本教科書は「高等学校学習指導要領 第1章 総則」、及び「第2章 第7節 芸術」、「第2款 第7 工芸 I」に示された趣旨並びに目標や内容を基にして、美的体験を重ね、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、工芸の伝統と文化についての理解を深めることができるよう、以下の各項目において特に意を用いて編修した。

### (1) 実態調査を基にした題材設定

・幅広い創造活動を体験し、豊かな美的体験ができるよう、全国で行われている授業の実態を調査し、取り組みやすい題材から応用的な題材まで、豊富な事例を用意した。

①多くの学校で表現の素材・技法として取り組まれている、木、金属、土（粘土）、染織の題材では、4ページの演習として構成し、基本的な素材・技法に関する情報2ページに加え、鑑賞作品1ページと使用する人や場を設定した具体的な表現課題1ページの組み合わせで示し、主題性のある表現を追求できるように工夫した。

②工芸と自然のかかわりや、工芸と風土や素材、工芸のかたち大きさと機能、多様な美意識など、いろいろな観点からの鑑賞題材を配列し、見方や感じ方、考え方が深まるようにした。

### (2) 参考作品を幅広く掲載

・生涯にわたり工芸を愛好する心情を育てられるよう、身近な内容から普遍的な価値をもつ工芸作品まで幅広く掲載し、多方面から興味をもって学習に取り組めるよう留意した。

①工芸と自然のかかわり、工芸のかたちや大きさと機能の関係に眼を向け身の回りのものを観察するなど、身近な自然や生活の中から題材を設定し、生活の中で工芸を意識できるようにした。

②日本の工芸に加え、諸外国の伝統的な工芸や西洋の工芸作品などについて、複数の図版や解説を加えることにより、興味・関心や理解が深まるようにした。

### (3) 明確な学びの視点と学習のねらい

・感性を高め、「思考力、判断力、表現力等」をより豊かに育成できるよう、各題材に学びの視点を明確に示し、生徒が意図をもって学習に取り組めるよう留意した。

①題材の本文等に見方や感じ方、考え方などの学びの視点を盛り込み、見方や感じ方を豊かにしながら、新たなものの捉え方や主題生成などができるようにした。

②各題材に、分かりやすく短い言葉で学習のねらいを明確に示した。

#### (4) 歴史的な内容の充実

- ・工芸の伝統と文化についての理解を深められるよう、各題材では学習内容の参考となる工芸作品を精選し、掲載した。
  - ①題材の参考作品を掲載する際に、技法や材料、地域などの違いに配慮して作品を選択した。
  - ②日本や諸外国の工芸の鑑賞題材の充実を図るとともに、特に漆などの生活に息づく我が国の伝統工芸や日本の工芸と万博、柳宗悦と民藝運動等の題材ページについて、知識等を学びながらよさが実感できるように図版や解説を充実させた。

#### (5) 技法・色彩等の資料の充実

- ・高等学校において工芸を学習する上で、身に付けておきたい材料や用具についての知識、表現技法などを、充実させて取り上げた。
  - ①各素材の演習ページでは、まず題材を学習する上で必要になる素材の特徴や材料用具の扱いや制作のプロセスなどの技法について示し、それに対応させて鑑賞図版及び表現課題を示すことにより、授業での使いやすさに配慮した。
  - ②色彩については、各素材そのものの色や技法の違いによる色の变化などを対比して参照できるように工夫し、知識理解を深め活用するための資料として巻末にまとめた。
  - ③道具などの使用については資料を巻末にまとめ、素材の種類、制作の段階などに応じて見直しをもって必要な道具を準備し制作を進められるように整理した。さらに、制作のための知識や安全管理、製図などについても充実させて示した。

#### (6) 学習意欲向上への工夫

- ・生徒が高い意欲で学習に取り組めるような工夫を施した。
  - ①各ページの下に「検索ワード」及び「調べてみよう」「考えてみよう」などを設け、教科書の内容と関連する事項や興味・関心のある事柄を主体的に学習できるようにした。
  - ②紙面に掲載した二次元コードを通して、題材の制作手順やポイント、動画などを見ることができるようになることで、学習の意欲を高められるようにした。

#### (7) オリエンテーションの充実

- ・巻頭のオリエンテーションでは、「水をすくう」行為と道具の関係を、巻末では「水を飲む様々なコップ」からものの価値を問うなど、身近な行為やものを切り口として示し、編集で重視した「学びが実感できる教科書」が感じ取れるように工夫した。
- ・巻末の「これからの工芸」では、工芸の表現を経験したつくり手として、同時に工芸作品や製品を購入して使用する使い手として、持続可能な社会の形成の視点から「つくる責任・使う責任」についても考えさせることを意図した。

## II. 対照表

学習指導要領の内容の構成		
領域	A 表現	事項
		(1) 身近な生活と 工芸
	(2) 社会と工芸	<p>ア 社会的な視点に立った発想や構想 (ア) 使う人の願いや心情、生活環境などから心豊かな発想をすること。 (イ) 使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え、制作の構想を練ること。</p> <p>イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (ア) 制作方法を踏まえ、意図に応じて材料や用具を生かすこと。 (イ) 手順や技法などを吟味し、創造的に表すこと。</p>
	B 鑑賞	(1) 鑑賞
[共通事項]	(1)	<p>ア 造形の要素の働きを理解すること。 イ 造形の特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。</p>

図書の構成・内容	学習指導要領の内容			内容の取扱い	該当箇所
	内容				
	A 表現	B 鑑賞	[共通事項]		
人間と道具		(1)イ (ア)	(1)ア イ	(1) (2) (3) (6) (7)	p. 2・3
工芸と自然のかかわり		(1)ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1)ア イ	(1) (2) (3) (6) (7)	p. 4・5
工芸と風土や素材		(1)イ (ア) (イ)	(1)ア イ	(1) (2) (3) (6) (7)	p. 6・7
工芸のかたち 大きさと機能		(1)ア (イ) イ (ア)	(1)ア イ	(1) (2) (3) (6) (7)	p. 8・9

多様な美意識		(1)ア (イ) イ (ア) (イ)	(1)ア イ	(1) (2) (3) (6) (7)	p. 10・11
身の回りのものを観察する		(1)イ (ア)	(1)ア イ	(1) (2) (3) (7)	p. 12・13
工芸と人		(1)ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1)ア イ	(2) (3) (6)	p. 14・15
素材と技法 木	(1)ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1)ア (ア) (イ)	(1)ア イ	(1) (2) (3) (4) (5) (7) (9)	p. 16~19
漆		(1)ア (イ) イ (ア) (イ)	(1)ア イ	(1) (2) (3) (7)	p. 20・21
素材と技法 金属	(1)ア (ア) (イ) イ (ア) (イ) (2)ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1)ア (ア) (イ)	(1)ア イ	(1) (2) (3) (4) (5) (7) (9)	p. 22~25
素材と技法 土	(1)ア (ア) (イ) イ (ア) (イ) (2)ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1)ア (ア) (イ)	(1)ア イ	(1) (2) (3) (4) (5) (7) (9)	p. 26~29
素材と技法 染織	(2)ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1)ア (ア) (イ)	(1)ア イ	(1) (2) (3) (4) (5) (7) (9)	p. 30~33
素材と技法 編組	(1)ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1)ア (ア) (イ)	(1)ア イ	(1) (2) (3) (4) (5) (7) (9)	p. 34・35
素材と技法 七宝	(1)ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1)ア (ア) (イ)	(1)ア イ	(1) (2) (3) (5) (7) (9)	p. 36・37
日本の工芸と万博		(1)イ (ア) (イ)	(1)ア イ	(2) (6) (8)	p. 38
柳宗悦と民藝運動		(1)イ (ア) (イ)	(1)ア イ	(2) (6) (8)	p. 39
用途と道具			(1)ア イ	(1) (3) (9)	p. 40・41
制作のための知識／安全指導／ 製図			(1)ア イ	(1) (3) (7) (9)	p. 42・43
工芸の色			(1)ア イ	(1) (3)	p. 44・45
これからの工芸		(1)イ (ア) (イ)	(1)ア イ	(1) (2) (3) (6) (7) (8)	p. 46・47